AKITA UNIVERSITY

GENERAL INFORMATION BULLETIN 2005

秋田大学概要

AKITA UNIVERSITY

平成17年度　2005

目　次

	ページ
学長あいさつ	1
基本理念・基本的目標・教育目標	2
アドミッション・ポリシー	3
中期目標・中期計画	4
21世紀COEプログラム	6
特色ある大学教育支援（GP）プログラム	7
沿革	8
運営組織	10
教育研究組織	11
事務組織	12
役職員	13
教育文化学部・教育学研究科	14
医学部・医学研究科	16
工学資源学部・工学資源学研究科	18
特殊教育特別専攻科	20
附属図書館	21
医学部附属病院	22
教育文化学部附属学校園	24
学部附属教育研究施設	25
鉱業博物館	26
就職支援活動	27
センター及び機構	28
学内共同教育研究施設等	30
福利厚生施設等	32
体育施設等	33
東京サテライト	34
工学資源学部通信教育講座	35
平成17年度大学開放事業	36
平成17年度主な課外行事	37
手形地区施設配置図	38
本道地区施設配置図	40
保戸野地区施設配置図	41
位置図及び所在地	42

学　年　歴

学　年

前　期 …… 4月1日～9月30日

後　期 …… 10月1日～3月31日

式（平成17年度）

入学式 …… 4月6日

卒業式 …… 3月22日

休　業（平成17年度）

春季休業 …… 2月23日～4月4日

夏季休業 …… 8月5日～9月30日

冬季休業 …… 12月26日～1月8日

歴代学長

氏　名	任　期
劒　木　亨　弘*	昭24. 5.31～昭24. 7.30
池　田　謙　三*	昭24. 7.31～昭25. 5. 5
佐　野　秀之助	昭25. 5. 6 ～昭30.12.24
五十嵐　　勇*	昭30.12.25～昭31. 2.29
渡　邊　萬次郎	昭31. 3. 1 ～昭41. 2.28
伊　藤　泰　一	昭41. 3. 1 ～昭44. 6. 9
藤　島　主　殿*	昭44. 6.10～昭46. 2.22
渡　邊　武　男	昭46. 2.23～昭51. 2.22
九　嶋　勝　司	昭51. 2.23～昭56. 2.22
梅　津　良　之	昭56. 2.23～昭61. 2.22
渡　部　美　種	昭61. 2.23～平 3 . 2.22
新　野　直　吉	平 3 . 2.23～平 8 . 2.22
徳　田　　弘	平 8 . 2.23～平13. 2.22
三　浦　　亮	平13. 2.23～

*は，事務取扱を表す。

学長あいさつ
Message from the President

国立大学法人秋田大学の発展を目指して

国立大学法人秋田大学長　三　浦　　亮

秋田大学は平成16年度を期して，国立大学法人として出発しました。従来の文部科学省を監督官庁とする国の機関の一部ではなく，自主・自律の運営を行っていくことになります。しかし，その予算の大半が国からの運営交付金すなわち国民の税金によることは変わりがなく，常に国民社会への奉仕，貢献を念頭に置くことは基本的な立場です。

本学はこれまでも国際的なレベルの人材の育成，研究の遂行，そして地域社会を含む社会貢献を果たして参りました。平成14年度に始まった「優れた研究・教育拠点　COE：Center of Excellence」で「生命科学分野」が，平成15年度に始まった「特色ある大学教育支援プログラム　GP：Good　Practice」で「三学部連携による地域・臨床型リーダー養成」がそれぞれ初年度から採択されており，伝統ある実績に支えられた本学の現在の実力と将来への構想力が優れていることを示しました。

法人化に際して秋田大学が示した基本理念，6年間の中期計画は本冊子中でさらに説明を加えており，着実に成果をあげて進行中です。

国民の支持・支援によって成り立っている秋田大学が，全国から集まった学生の皆さんの期待に応え得る大学として，さらに発展するために全力を尽くします。

基本理念・基本的目標・教育目標

The Missoin, Goal, and Educational Objective

秋田大学は,下記の基本理念を定め,それを達成するための5つの基本的目標をもって,活動を推進します。また,特に養成する人材像を教育目標として定め,教育にあたります。

基 本 理 念

1.国際的な水準の教育・研究を遂行します。

2.地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与します。

3.国の内外で活躍する有為な人材を育成します。

基本的目標

1.「学習者」中心の大学教育を行い,幅広い教養と深い専門性,豊かな人間性と高度の倫理性を備えた人材を養成します。

2.基礎から応用までの研究,特に『「環境」と「共生」』を課題とした独創的な研究活動を行います。

3.地域と共に発展し,地域と共に歩む「地域との共生」を目指します。

4.国際的な教育・研究拠点の形成を目指し,地球規模の課題の解決に貢献します。

5.学長のリーダーシップの下,柔軟で有機的な運営体制を構築します。

教 育 目 標

(学部)

1.社会の変化に柔軟に適応できる幅広い教養と深い専門性,豊かな人間性と高度の倫理性を備え,社会の発展に貢献できる人材を養成します。

2.地域の文化的・経済的発展に貢献できる人材を養成します。

3.国際人として通用するコミュニケーション能力・異文化理解力を備えた人材を養成します。

(大学院)

1.国際人として通用する,高度な専門性・独創性と倫理性を備えた人材を養成します。

2.専門性の高い研究能力を備え,指導者になりうる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー
Admission Policy

秋田大学が求める学生像

大切な時間を秋田と　ー共に集い,語り,学ぶー

○豊かな教養と専門性を備えた社会人になりたい学生

○教育文化,医療・保健福祉,科学技術の発展に尽くしたい学生

○国際的,学際的な分野で活躍したい学生

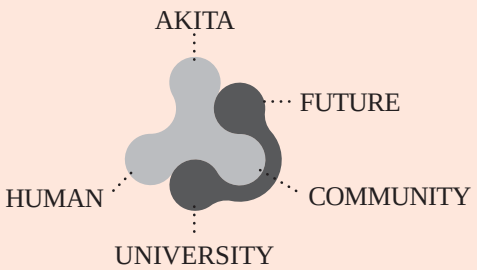
学　章

秋田大学の学章については,昭和24年9月16日に秋田大学開学記念として,懸賞募集の結果,臨時評議会において1等当選となった図案である。

3枚の秋田蕗の葉に,大学の文字を配したもので,当時の鉱山学部教官中村譲氏の考案になる。その後秋田大学のシンボルマークとして使用されてきたが,平成16年4月1日学章として定められ,同時に校旗の制式も定められた。

ロゴマーク

AKITA UNIVERSITY



それぞれの円には,上の5つの意味を込めている。また,オレンジの形の3頂点は秋田大学の3学部の存在を表している。

オレンジの形にはAkitaの‘A’を,ブルーの形にはUniversityの‘U’のイメージを持たせている。

秋田大学は法人化にいかに対応していくか
：中期目標・中期計画に基づく発展の方策

中期目標・中期計画とは，全国の国立大学それぞれが法人化後６年間で行う取り組みを自主的にまとめたもので，大学は，これを確実に実施することによって，本来の使命を果たすとともに，法人化後の競争的資源配分方式のもとで健全な運営ができる強力な体質をつくることができます。この中期目標・中期計画を着実に実施するためには，６年間の各年度ごとに具体的達成目標をたて（これを「年度計画」といいます。），その達成度を自己評価しながら進める必要があります。

本学では，中期目標・中期計画が大学の将来を左右するものととらえ，その実現に向けて鋭意取り組んでおり，その具体的内容は次のようになります。

◆本学の基本理念・中期目標・中期計画

○本学では次の３点を基本理念とし，その基盤の上に中期目標・中期計画を設定しました。

（１）国際的な水準の教育・研究を遂行します。
（２）地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与します。
（３）国の内外で活躍する有為な人材を育成します。

○基本的目標としては次の５項目を設定しました。

（１）学習者中心の大学教育を行い，幅広い教養と深い専門性，豊かな人間性と高度の倫理性を備えた人材を育成します。
（２）基礎から応用までの研究，特に『「環境」と「共生」』を課題とした独創的な研究活動を行います。
（３）地域と共に発展し地域と共に歩む「地域との共生」を目指します。
（４）国際的な教育・研究拠点の形成を目指し，地球規模の課題の解決に貢献します。
（５）学長のリーダーシップの下，柔軟で有機的な運営体制を構築します。

中期計画はこの５つの基本的目標を実現する190項目の具体的措置からなっており，更に中期計画の内容に基づき，平成17年度において実施すべき事項を記載した年度計画を作成しております。

以下，中期計画中の教育，研究，社会貢献，国際交流に関する方策について述べます。

１.教育に関する発展方策

○本学独自の知的付加価値を追求した学生教育

学習者中心の大学教育を行い，幅広い教養と深い専門性，豊かな人間性と高度な倫理性を備えた，社会の発展に貢献できる人材を育成します。

そのため「教育推進総合センター」並びに「学生支援総合センター」を設置し，目標を実現するため教育システムを全学の教職員が協力して推進します。

○高等教育における教育方法開発計画の重点化

本学の全教職員が参加する宿泊型のＦＤワークショップ等を開催し，本学の教育的使命のより具体的な基盤環境づくりに取り組みます。

2.研究に関する発展方策

○「一定の基盤研究費の保証」と「基本的目標に沿った独自性の高い研究プロジェクト」の形成

人文科学,基礎分野のように直ちに成果を期待できないが重要な学問分野,独自性の高いもの及び萌芽性のある一般研究等を興隆させると同時に本学の基本的目標に沿った独自性の高い研究プロジェクトを推進します。

○先端分野の教育・研究の積極的な推進

バイオサイエンスとレアメタルに関する2つの国際的な教育・研究拠点を形成するため,「バイオサイエンス教育・研究センター」及び「ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー」の拡充・整備に努めます。

3.社会貢献に関する発展方策

○産学官及び地域連携の推進

産業・医療・教育という観点から,「産学官連携・地域との共生」の本学の拠点として「地域共同研究センター」を拡充・整備します。

「社会貢献推進機構」を中心に人的・物的資源や総合力を動員し,社会・地域への貢献を推進します。

○「地域との共生」と「大学及び附属病院の経営の安定化」

教育と研究の視座に医療を加えて,安全性や快適性の向上を目指した附属病院の再開発を推進し,大学及び附属病院の経営の安定化を目指します。

4.国際交流に関する発展方策

○留学生受入の拡大と本学学生の海外留学推進

本学の留学生受入を拡大するために,「国際交流推進機構」を中心に,国際広報活動の活性化,国際的な教育研究の推進と支援を行います。また,学部留学生,大学院留学生や海外からの研究者が学習と研究に専念できる環境を整えます。一方,本学学生が海外で学習する機会を多くするための支援を行います。

◆中期目標・中期計画を達成するために

○教育・研究・社会貢献・国際交流等の評価に関する「評価センター」の設置

一定の基準で自らを評価する機能を持つことが大学にとって不可欠であり,そのために「評価センター」を設置しました。その評価結果は,基本理念・中期目標を達成するための諸施策が効果的に機能しているかどうかを判断する役割,つまり効果的な諸施策となっているかどうかの検出機能の役割を果たすことが期待されます。これを活用することにより基本理念・中期目標を効果的に実現します。

国立大学法人秋田大学の中期目標・中期計画・年度計画等は,秋田大学ホームページ(http://www.akita-u.ac.jp/)で,ご覧になれます。

21世紀COEプログラム

The 21st Century COE Program

「21世紀COE(センター・オブ・エクセレンス)プログラム」とは,文部科学省が打ち出した「大学の構造改革」の一環として,世界最高水準の研究教育拠点になる可能性が十分あると考えられる大学に,大学院博士課程レベルで予算を重点的に配分する制度です。

COEプログラムコアメンバーの下で研究するCOEポスドク

COEプログラムによりバイオサイエンス教育・研究センターに設置された超高速セルソーター

バイオサイエンス教育・研究センターで,ポスドク等を率いて独立した研究プロジェクトを進めるCOE主任研究員

21世紀COEプログラムがはじまった平成14年度には、生命科学など5分野で全国の国公私立163大学464件の申請があり,同省から委託された日本学術振興会が運営する「21世紀COEプログラム委員会」(江崎玲於奈委員長)で審査の後,50大学113件が選考され,本学大学院医学研究科からも生命科学分野に申請した「細胞の運命決定制御」(拠点リーダー:鈴木聡教授(平成16年度までは稲垣暢也教授))が選ばれました。

鈴木教授をリーダーとしたこの研究は,細胞の増殖,機能分化,再生,死など運命決定に関わるメカニズムを生理学的,分子生物学的,細胞生物学的手法などを用いて明らかにするもので、研究成果は,糖尿病や,がん,アレルギーなど細胞の異常によって引き起こされる疾患の解明,治療,臓器再生など,さまざまな点で医療に役立つことが期待されています。

本プログラムでは、研究プロジェクトである「細胞の運命決定制御」を明らかにすべく全力を尽くすことは言うまでもありませんが,その他にも大学院生や若手の研究者を育成し,秋田大学において世界に誇れる研究教育拠点を形成することを目標としています。そのためには質の高い研究教育指導を行うと同時に,優秀な独立主任研究員,ポスドク(博士課程修了),大学院生などの若手研究者を国内外から広く募集し,経済的な支援を含めた研究しやすい環境づくりに取り組んでいます。

21世紀COEプログラムがはじまってからは,国際的に権威のある科学雑誌である「ネイチャー」や「セル」などの多くの著名な雑誌に研究成果が掲載されており,昨年9月には,日本学術振興会の仲介により,ケンブリッジ大学,熊本大学21世紀COEプラグラムと共に,合同シンポジウムをケンブリッジ大学で開催し,研究成果を発表しております。さらに昨年,本学を含め50大学113件の研究プログラムを対象とした中間評価が公表されました。秋田大学は,「地方にありながら,細胞生物学における世界水準の研究拠点形成が進んでいると評価される。また,公募プロジェクト型主任研究員の採用とそれに対する大学挙げての研究支援体制の整備など,世界をリードする人材育成の面でも大いに期待される拠点である。さらに本拠点を核とした産学連携による疾患治療法の開発など,応用面でも期待される。」とのコメントをいただき,最上位のA評価を受けました。

このようなすばらしい研究成果をあげる一方で,積極的に産官学連携研究を推し進めており,ベンチャー企業の立ち上げや共同研究,役員としての企業参画などを果たしております。

このように本プログラムは目的どおり進行しており,秋田大学が世界最高水準の研究・教育拠点になるよう,今後への期待が一層高まっています。

特色ある大学教育支援(GP)プログラム

Good Practice Program

GPプログラムとは？

文部科学省は平成15年度から「特色ある大学教育支援プログラム」と名づけた公募事業を開始しました。Good Practiceの略で「特色GP」ともいい,教育面での優れた取組を選定し高等教育の改善に活用する事業です。

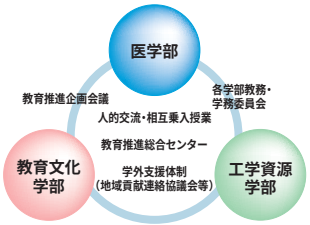
秋田大学が「特色GP」プログラムに採択

第1回GPに秋田大学は「三学部連携による地域・臨床型リーダー養成」と題して応募しました。審査の結果,全学が連携体制をとり,「フィールドインターンシップ型授業」という方法によって地域・臨床型リーダー養成を目指していることが他大学の模範事例になると評価され,採択されました。全国で80校,東北地域では秋田大・東北大・秋田県立大・会津大・桜の聖母短大,計5校の採択でした。

秋田大学の三学部連携体制

教育・研究分野が異なる教育文化学部・医学部・工学資源学部が連携体制をとるものです。組織面では教育推進総合センターが推進するほか,学外からは地域貢献連絡協議会等の支援も得ています(図1)。授業面では三学部の教員が教養基礎教育科目を担当し,三学部相互乗入授業も行われています。

三学部連携 (図1)



三学部連携は,三学部間の人的交流と相互乗入授業,および学内・学外連携体制を構築して活用する,人・組織・経費の重層的支援体制を指す。

フィールドインターンシップ型授業

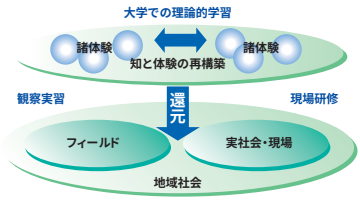
フィールドワークとインターンシップの二語からなる本学の合成語です。授業の特色は現場実習や研修の成果を大学での教育を通じて「知と体験の再構築」をはかり,これを再び社会に還元することにあります。(図2)。

教育文化学部の教員養成分野では附属学校園との年100回を超える共同研究事業や多彩な臨床実験型授業を行っています。多様な人材を養成する分野では「企業・行政研修」「人間環境学体験実習」等70余のフィールドインターンシップ型授業を実施しています。

医学部医学科では附属病院で診察体系を一通り経験した後、医師としての実験実習をさらに進めるため6年次に「地域包括保健・医療・福祉実習」を実施しています。保健学科では専門教育への導入として1年次に3日から1週間学外実習を行い,専門臨床として2年次から4年次の6ヶ月間,病院や施設で臨地実習を行っています。

工学資源学部では「創造工房実習」と「インターンシップ」が学部共通科目となっています。特色ある取組として海外に出かけて行う「地質巡検」「地質調査法実習」もあります。

フィールド
インターンシップ型授業 (図2)

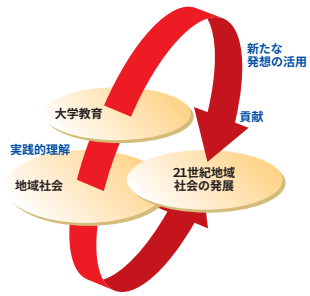


フィールドインターンシップは本学の合成語。学外での観察・調査・実習と,企業・行政・医療・保健等の現場研修を通じ,大学での倫理的学習により「知と体験の再構築」をはかり,その成果を地域社会に還元する力を獲得することを包括した授業。

地域・臨床型リーダー養成

本取組で目指すのは地域社会を実践的視点から理解し,大学教育によって培われる新たな発想を活用して地域の生活環境の向上に貢献できる地域活性型リーダー,国際化推進の異文化交流に貢献できる地域交流型リーダー養成です(図3)。本学学生のリーダーシップ発揮事例として「ヤートセ秋田祭」(学生・市民参加型の大規模な舞踏祭)の企画と運営,秋田市中心部開発事業への参加(ChangingAKITA),ウェルフェアテクノハウス研究会活動(秋田県北秋田市),中南米音楽サークル La・mia (アルゼンチン世界大会出場)の社会活動,市民約500人が参加する40kmの「今日歩大会」の企画と運営,卒業生の海外での活躍等があり,国内外から広く注目されています。

地域・臨床型リーダー (図3)



地域・臨床型リーダーとなるためには,単なる経験主義だけでも,また,机上の知識だけでも不十分であり,大学教育に加えて,地域や現場での体験学習を積むことが必要不可欠である。

沿　革
Historical Sketch

注:太字は現行部局等を示す。

大学院
専攻科
学部

明43.3 秋田鉱山専門学校
明6.9 秋田伝習学校
明7.5 秋田太平学校
明11.4 秋田県師範学校
明11.12 秋田師範学校
明13.5 秋田女子師範学校
明19.8 秋田県尋常師範学校
明31.4 秋田県師範学校
明42.4 秋田県女子師範学校
昭18.4 秋田師範学校(官立)
大13.3 秋田県立実業補習学校教員養成所
昭10.4 秋田県立青年学校教員養成所
昭19.4 秋田青年師範学校(官立)

昭24.5 **秋田大学**

- 大学院
  - 教育学研究科(平元.4)
  - 医学研究科(昭51.4)
  - 鉱山学研究科(昭40.4)
  - 工学資源学研究科(平14.4改組)
- 専攻科
  - 教育専攻科(昭40.4設置,平元.3廃止)
  - 特殊教育特別専攻科(昭55.4)
  - 鉱山学専攻科(昭29.4設置,昭40.3廃止)
- 昭24.5 学芸学部 / 教育学部(昭42.6改称)
  - 小学校教員養成課程
  - 中学校教員養成課程
  - 養護学校教員養成課程(昭43.4)
  - 幼稚園教員養成課程(昭48.4)
  - 情報科学課程(平3.4)
  - 教育文化学部(平10.4改組)
  - 学校教育課程
  - 地域科学課程
  - 国際言語文化課程
  - 人間環境課程
  - 附属小学校(昭26.4)
  - 附属中学校(昭26.4)
  - 附属養護学校(昭47.4)
  - 附属幼稚園(昭26.4)
  - 附属教育工学センター(昭52.4)
  - (平10.4改組)
  - 附属教育実践研究指導センター(平4.4改組)
  - 附属教育実践総合センター(平12.4改組)
- 昭45.4 医学部
  - 医学科(昭45.4)
  - 保健学科(平14.10)
  - 附属病院(昭46.4)
  - 附属看護学校(昭47.4設置,平4.3廃止)
  - 附属動物実験施設(昭56.4設置,平16.3廃止)
  - 附属実験実習機器センター(昭57.4設置,平16.3廃止)
- 昭24.5 鉱山学部
  - 採鉱学科
  - 鉱山地質学科
  - 冶金学科
  - 金属材料学科(昭42.4)
  - 燃料化学科
  - 資源化学工学科(昭56.4)
  - 機械工学科
  - 生産機械工学科(昭52.4)
  - 電気工学科
  - 電子工学科(昭48.4)
  - 土木工学科(昭41.4)
  - (平2.4改組)
    - 資源・素材工学科
    - 物質工学科
    - 情報工学科
  - (平3.4改組)
    - 機械工学科
    - 電気電子工学科
    - 土木環境工学科
  - (平10.4改組)
    - 地球資源学科
    - 環境物質工学科
    - 材料工学科
    - 情報工学科
    - 機械工学科
    - 電気電子工学科
    - 土木環境工学科
  - 工学資源学部(平10.4改組)
  - 附属地下資源開発研究所(昭25.4)
  - 附属地下資源研究施設(昭42.4改称)
  - 附属資源地学研究施設(昭61.4改組)
  - 附属素材資源システム研究施設(平8.5改組)
  - 附属鉱業博物館(昭40.4)
  - 通信教育講座
- 平元.10 医療技術短期大学部
  - 看護学科
  - 理学療法学科(平2.4)
  - 作業療法学科(平2.4)
  - 平14.10保健学科へ改組
  - 平17.3閉学

平16.4 **秋田大学**
国立大学法人法(平成15年7月16日法律112号)に基づき設置された国立大学

運営組織
Management Organization

経営協議会
（10人）
Management Committee
（経営に関する重要事項を審議）

◇学長
◇理事（財務担当）（非常勤）
◇理事（総務担当）
◇医学部附属病院長
◇学長指名職員
（学長特別補佐（企画調整・評価担当））
◇学外委員（5人）

役　員　会
（6人）
Board of Directors
（経営，教学の両面にわたり，特定の重要事項について，学長の意思決定に先立ち議決を行う。）

◇学長
◇理事（教育担当）
◇理事（学術研究担当）
◇理事（社会貢献・国際交流担当）
◇理事（財務担当）（非常勤）
◇理事（総務担当）

教育研究評議会
（19人）
Education and Research Council
（教育研究に関する重要事項を審議）

◇学長
◇理事（教育担当）
◇理事（学術研究担当）
◇理事（社会貢献・国際交流担当）
◇学長特別補佐（企画調整・評価担当）
◇教育文化学部長
◇医学部長
◇工学資源学部長
◇附属図書館長
◇医学部附属病院長
◇地域共同研究センター長
◇総合情報処理センター長
◇教育推進主管
◇各学部長推薦の当該学部教授（各2人）

監事
（2人）
Auditors
（うち，非常勤1人）

部局長等連絡調整会議
（13人）

◇学長
◇理事（教育担当）
◇理事（学術研究担当）
◇理事（社会貢献・国際交流担当）
◇理事（財務担当）（非常勤）
◇理事（総務担当）
◇学長特別補佐（企画調整・評価担当）
◇教育文化学部長
◇医学部長
◇工学資源学部長
◇附属図書館長
◇医学部附属病院長
◇経営協議会の学外委員（1人）

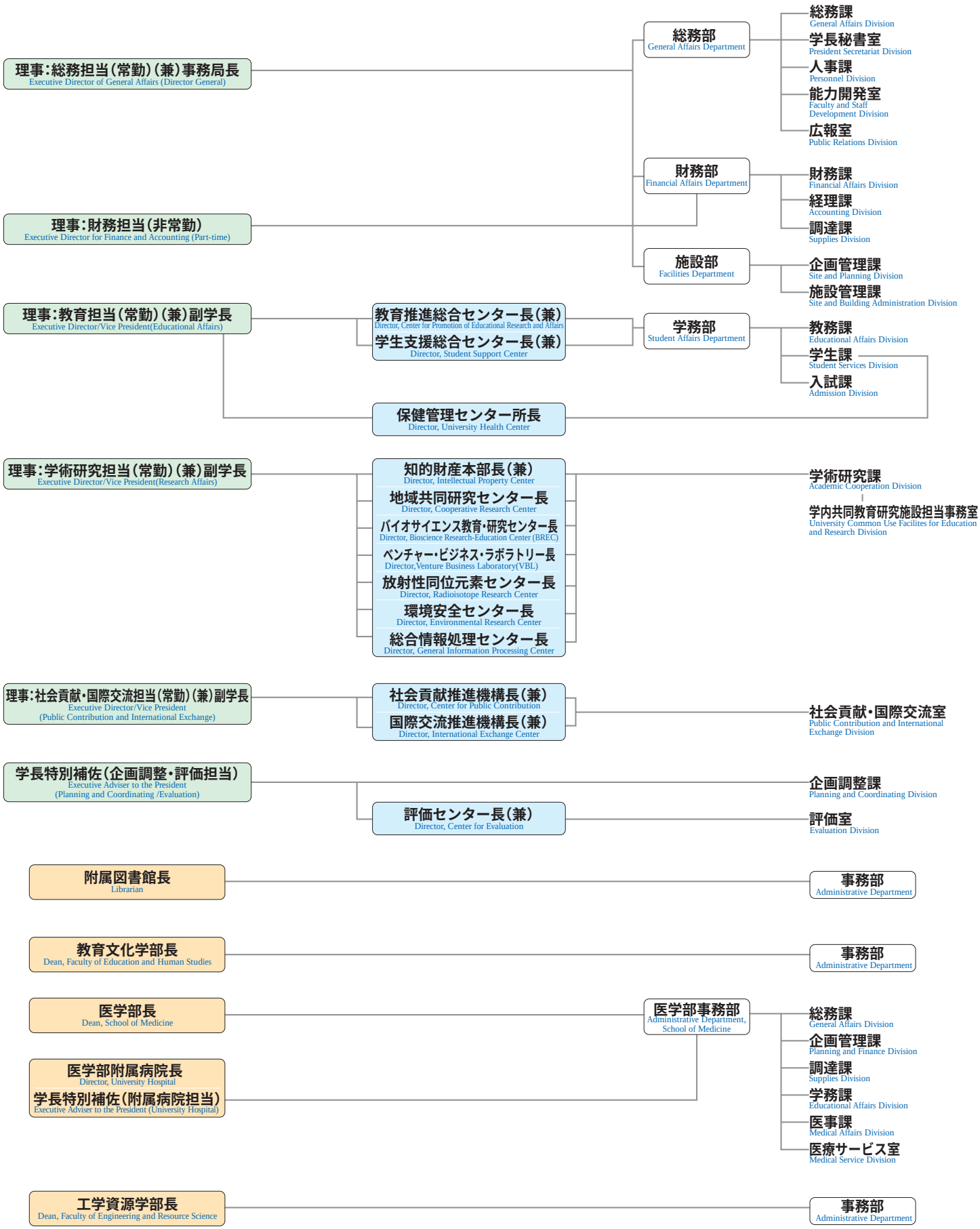
学長選考会議
（15人）
President Nomination Committee

◇理事（教育担当）
◇理事（学術研究担当）
◇理事（社会貢献・国際交流担当）
◇理事（財務担当）（非常勤）
◇理事（総務担当）
◇学長特別補佐（企画調整・評価担当）
◇教育文化学部長
◇医学部長
◇工学資源学部長
◇附属図書館長
◇経営協議会委員のうち国立大学法人秋田大学の役員又は職員以外の者（5人）

教育研究組織
Academic Organization

- 秋田大学 Akita University
  - 学部 Faculties
    - 教育文化学部 Faculty of Education and Human Studies
      - 学校教育課程 Program in School Education
      - 地域科学課程 Program in Regional Studies
      - 国際言語文化課程 Program in International Language and Culture Studies
      - 人間環境課程 Program in Environmental and Mathematical Sciences
      - 附属教育実践総合センター Center for Educational Research and Practice
      - 附属小学校 Elementary School
      - 附属中学校 Junior High School
      - 附属養護学校 Special School for Mentally Retarded Children
      - 附属幼稚園 Kindergarten
    - 医学部 School of Medicine
      - 医学科 School of Medicine
      - 保健学科 School of Health Sciences
      - 附属病院 University Hospital
    - 工学資源学部 Faculty of Engineering and Resource Science
      - 地球資源学科 Department of Earth Science and Technology
      - 環境物質工学科 Department of Materials-process Engineering and Applied Chemistry for Environments
      - 材料工学科 Department of Materials Science and Engineering
      - 情報工学科 Department of Computer Science and Engineering
      - 機械工学科 Department of Mechanical Engineering
      - 電気電子工学科 Department of Electrical and Electronic Engineering
      - 土木環境工学科 Department of Civil and Environmental Engineering
      - 附属鉱業博物館 Mineral Industry Museum
      - 附属素材資源システム研究施設 Research Institute of Materials and Resources
      - 附属ものづくり創造工学センター Innovation Center for Engineering Design and Manufacturing
      - 通信教育講座 Education by Correspondence Course
  - 大学院 Graduate Schools
    - 教育学研究科 Graduate School of Education
      - 修士課程 Master's Degree Program
        - 学校教育専攻 School Education
        - 教科教育専攻 Major Subjects Education
    - 医学研究科 Graduate School of Medicine
      - 博士課程 Doctor's Degree Program
        - 構造機能系専攻 Physiological Sciences
        - 病理病態系専攻 Pathological Sciences
        - 社会医学系専攻 Social Medicine
        - 内科系専攻 Internal Medicine
        - 外科系専攻 Surgery
    - 工学資源学研究科 Graduate School of Engineering and Resource Science
      - 博士前期課程 Master's Degree Program
        - 地球資源学専攻 Department of Earth Science and Technology
        - 環境物質工学専攻 Department of Materials-process Engineering and Applied Chemistry for Environments
        - 材料工学専攻 Department of Materials Science and Engineering
        - 情報工学専攻 Department of Computer Science and Engineering
        - 機械工学専攻 Department of Mechanical Engineering
        - 電気電子工学専攻 Department of Electrical and Electronic Engineering
        - 土木環境工学専攻 Department of Civil and Environmental Engineering
      - 博士後期課程 Doctor's Degree Program
        - 資源学専攻 Department of Geosciences, Geotechnology, and Materials Engineering for Resources
        - 機能物質工学専攻 Department of Advanced Materials Engineering
        - 生産・建設工学専攻 Department of Production and Civil Engineering
        - 電気電子情報システム工学専攻 Department of Electrical, Electronic and Computer Systems Engineering
  - 専攻科 Advanced Course
    - 特殊教育特別専攻科 Advanced Program in Special Education
      - 知的障害教育専攻 Education for Mentally Retarded Children
  - 附属図書館 University Library
    - 医学部分館 Medical School Library
  - 学内共同教育研究施設 University Common Use Facilities for Education and Research
    - 地域共同研究センター Cooperative Research Center
    - 総合情報処理センター General Information Processing Center
    - ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー Venture Business Laboratory(VBL)
    - バイオサイエンス教育・研究センター Bioscience Research-Education Center(BREC)
    - 放射性同位元素センター Radioisotope Research Center
    - 環境安全センター Environmental Research Center
  - センター・機構 Center for Education and Research
    - 評価センター Center for Evaluation
    - 教育推進総合センター Center for Promotion of Educational Research and Affairs
    - 学生支援総合センター Student Support Center
    - 社会貢献推進機構 Center for Public Contribution
    - 国際交流推進機構 International Exchange Center
    - 知的財産本部 Intellectual Property Center
    - 保健管理センター University Health Center

事務組織
Administrative Organization



役職員
Administrative Staff

平成17年4月1日現在

役員会

学長	三浦　亮
理事(教育担当)	池村　好道
理事(学術研究担当)	谷口　敏幸
理事(社会貢献・国際交流担当)	吉岡　尚文
理事(財務担当)(非常勤)	白滝　一紀
理事(総務担当)・事務局長	荒木　長
監事	臼田　雅郎
監事(非常勤)	菊地　康男

経営協議会

学長	三浦　亮
理事(財務担当)(非常勤)	白滝　一紀
理事(総務担当)	荒木　長
医学部附属病院長	加藤　哲夫
学長特別補佐(企画調整・評価担当)	菊地　賢一
秋田県立大学長	鈴木　昭憲
秋田商工会議所名誉会頭	辻　兵吉
酒田市立病院長	栗谷　義樹
秋田魁新報社社長	佐藤　暢男
工学資源学部北光会会長	菊地　芳朗

教育研究評議会

学長	三浦　亮
理事(教育担当)・副学長	池村　好道
理事(学術研究担当)・副学長	谷口　敏幸
理事(社会貢献・国際交流担当)・副学長	吉岡　尚文
学長特別補佐(企画調整・評価担当)	菊地　賢一
教育文化学部長	熊田　亮介
医学部長	飯島　俊彦
工学資源学部長	川上　洵
附属図書館長	石川三佐男
医学部附属病院長	加藤　哲夫
地域共同研究センター長	玉本　英夫
総合情報処理センター長	井上　浩
教育推進主管	川東　雅樹
教育文化学部教授	寺井　謙次
教育文化学部教授	肥田　登
医学部教授	榎本　克彦
医学部教授	浅沼　義博
工学資源学部教授	佐藤　進
工学資源学部教授	吉村　昇

事務局等

事務局長	荒木　長
総務部長	加藤　荘一
総務課長	西川　暢一
学長秘書室長	西川　暢一
人事課長	佐藤　貢
能力開発室長	佐藤　貢
広報室長	保坂　勇悦
財務部長	加藤　泰久
財務課長	倉持　光雄
経理課長	鈴木　英一
調達課長	伊藤　重範
施設部長	菊池　健
企画管理課長	天野　良
施設管理課長	川田　裕
学務部長	薄田　堯明
教務課長	三國谷時雄
学生課長	陸名　明
入試課長	佐々木　俊二
企画調整課長	青木　正弘
評価室長	青木　正弘
学術研究課長	佐藤　金壽
社会貢献・国際交流室長	加藤　秀憲

センター・機構等

地域共同研究センター長	玉本　英夫
総合情報処理センター長	井上　浩
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長	石尾　俊二
バイオサイエンス教育・研究センター長	鈴木　聡
放射性同位元素センター長	菅井　幹夫
環境安全センター長	本橋　豊
評価センター長	菊地　賢一
教育推進総合センター長	池村　好道
学生支援総合センター長	池村　好道
社会貢献推進機構長	吉岡　尚文
国際交流推進機構長	吉岡　尚文
知的財産本部長	谷口　敏幸
保健管理センター所長	苗村　育郎
教育推進主管	川東　雅樹

附属図書館

館長	石川　三佐男
医学部分館長	高田　五郎
事務長	笹本　達見

教育文化学部

学部長	熊田　亮介
事務長	三浦　勲
附属小学校長	佐藤　稔
附属中学校長	井上　正鉄
附属養護学校長	石黒　純一
附属幼稚園長	鶴　光代
附属教育実践総合センター長	小松　正武

医学部

学部長	飯島　俊彦
附属病院長	加藤　哲夫
事務部長	遠藤　賢治
総務課長	工藤　美明
企画管理課長	山﨑　賢司
調達課長	高橋　康一
学務課長	永井　譲
医事課長	小玉　功
医療サービス室長	小玉　功

工学資源学部

学部長	川上　洵
事務長	鈴木　雄悦
附属鉱業博物館長	丸山　孝彦
附属素材資源システム研究施設長	高島　勲
附属ものづくり創造工学センター長	土岐　仁

大学院

教育学研究科長	熊田　亮介
医学研究科長	飯島　俊彦
工学資源学研究科長	川上　洵

教育文化学部・教育学研究科

Faculty of Education and Human Studies / Graduate School of Education

教育文化学部

教育文化学部は,教員養成と地域社会,国際社会,環境関連分野で活躍できる人材の養成を目的とし,4つの課程で構成されています。

学校教育課程:次世代を育てる教員の養成

1.幅広い社会的視野にたって,子どもの心を理解する柔軟性のある教員
2.今日の教育的病理を克服し得る指導力・問題解決能力を備えた教員
3.情報処理及び活用能力を備えた教員
4.「ふるさと教育」など地域的課題を理解し実践できる教員

地域科学課程:地域社会に貢献する人材の養成

1.地域社会の活性化に向けて,企業や行政など多様な分野で活動できる人材
2.生活者の視点から地域活動計画を立案し実践できる人材
3.地域文化を発見・再評価し,新たな文化資源・環境のあり方やその活用方法を提示できる人材

国際言語文化課程:国際交流に貢献する人材の養成

1.地域における国際交流に貢献できる人材
2.環日本海地域間協力・交流システムづくりに貢献できる人材
3.海外諸国において,日本文化の深い理解とコミュニケーション能力を基礎として異文化交流に携わる人材
4.外国語を活かせる分野で活躍できる人材

人間環境課程:人間生存環境を構築する人材の養成

1.望ましい快適環境を提案できる人材
2.人間の生活を支える生物環境資源の持続的利用・管理のための方策を提示できる人材
3.自然生態系の保全のあり方を提示できる人材
4.自然環境の急速な変化に対応できる生活防衛システムづくりや情報化社会における人工環境のシステム構築に貢献できる人材

課程	選修	講座
学校教育	教科教育実践	教科教育学 音楽教育 美術教育 スポーツ・健康教育
	障害児教育	障害児教育
	発達科学	発達教育 教育心理学
地域科学	政策科学	政策科学
	生活者科学	生活者科学
	文化環境	文化環境
国際言語文化	日本・アジア文化	日本・アジア文化
	欧米文化	欧米文化
	国際コミュニケーション	国際コミュニケーション
人間環境	自然環境	自然環境
	環境応用	環境情報 基礎数理

教育学研究科

大学院教育学研究科は,平成元年に5専修で創設し,平成9年にすべての教科に対応する11専修を整えました。さらに平成14年に時代の要請を受けて心理教育実践専修を発足しました。

本研究科は,21世紀の初等中等教育を担う優れた質の高い教員の養成を目的としており,現職教員の受け入れのほか,海外からの入学も積極的に進めています。

また,修了者は年々,学校現場,県教委等で指導的な役割を果たしています。

課程	専攻	専修
修士課程	学校教育専攻	学校教育専修
		心理教育実践専修
	教科教育専攻	国語教育専修
		社会科教育専修
		数学教育専修
		理科教育専修
		音楽教育専修
		美術教育専修
		保健体育専修
		技術教育専修
		家政教育専修
		英語教育専修

医学部・医学研究科

School of Medicine / Graduate School of Medicine

医学部

医　学　科

医学科では，適切な科学・医学知識や，医療技術を習得した上で，豊かな文化的教養を身に付け，臨床研修や基礎研究を始めるために必要な意欲と能力を持つ人材を育成するとともに，高度先進医学・医療を推進し，地域社会における医療・福祉の充実に貢献することを目標としています。

平成15年4月に講座の再編を行い，4つの基礎医学講座と6つの臨床医学講座に移行しました。バイオサイエンス教育・研究センターと有機的に連携しながら，教育及び研究の充実・発展を図っています。

基礎医学講座	
大　講　座	分　　野
構造機能医学	形態解析学
	細胞生物学
	器官構造学
	分子医科学
	分子機能学
	代謝機能学
機能制御医学	細胞制御学
	器官制御学
	統合制御学
	情報制御学
	実験治療学
	医用工学
病理病態医学	分子病態学
	器官病態学
	腫瘍病態学
	感染制御学
	生体防御学
	病原微生物学
社会環境医学	法医科学
	環境保健学
	健康増進医学
	医科学情報学
	国際交流

臨床医学講座	
大　講　座	分　　野
内科学	消化器内科学
	神経内科学
	呼吸器内科学
	循環器内科学
	血液内科学
	腎臓内科学
	内分泌・代謝・老年医学
外科学	消化器外科学
	呼吸器外科学
	心臓血管外科学
	小児外科学
神経運動器学	脳神経外科学
	精神科学
	整形外科学
感覚器学	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
	眼科学
	皮膚科学・形成外科学
生殖発達医学	小児科学
	産婦人科学
	泌尿器科学
統合医学	麻酔科学・蘇生学
	救急・集中治療医学
	放射線医学
	臨床検査医学

保健学科

保健学科は平成14年10月に設置された新しい学科で，平成15年4月から学生を受け入れております。次の3専攻（8講座）を有し、豊かな感性と高い教養，医療に関する幅広い専門知識と高度な技術を身に付け，国民の健康と医療・福祉に貢献できる医療技術者，並びに教育・研究の発展に寄与できる創造性豊かな人材を育成します。また，教育の礎となり，健康科学に広く関わる知識と技術の発展に資する研究を目指し，社会に貢献します。

専攻	講座
看護学（4講座）	基礎看護学
	臨床看護学
	母子看護学
	地域・老年看護学
理学療法学（2講座）	基礎理学療法学
	臨床理学療法学
作業療法学（2講座）	基礎作業療法学
	臨床作業療法学

医学研究科

大学院医学研究科は，最先端の医学・医療を学ぶ向上心と意欲を修得させるとともに，国際的な視野に立ち，専攻分野あるいはその隣接領域について自立した研究活動を行い，高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有する研究・教育者あるいは高度職業人を養成しています。

課程	専攻
博士課程	構造機能系専攻
	病理病態系専攻
	社会医学系専攻
	内科系専攻
	外科系専攻

工学資源学部・工学資源学研究科

Faculty of Engineering and Resource Science / Graduate School of Engineering and Resource Science

工学資源学部

工学資源学部は,地球環境と調和のとれた資源科学と,豊かな人間性を支える工学の発展に寄与できる技術者及び研究者の養成をします。

資源系では地球規模となった資源・環境・エネルギー問題の解決のための教育・研究の発展を図り国際的に活躍できる資源技術者の養成を行います。一方,工学系においては,先端分野・学際分野への展開を継続しながら,地域の課題である高齢化への対応や新たな産業の創出などへ寄与できる教育・研究分野の充実を図り,地域の産業を担う人材の養成を行います。

教育と研究の基本的な視点

1.グローバリゼーション時代の資源学への対応
2.社会の要請に応える人材の養成
3.地域社会への積極的な貢献

学部の特色

1.幅広い入学者の受け入れ
2.独創的,起業家精神の育成
3.先端的研究の進展
4.国際的な資源技術者の養成
5.地域社会の問題への取り組み

具体的な教育カリキュラムの編成

1.応用力や創造性を重視した専門教育(創造工房実習,フィールド実習)
2.社会における科学技術の役割の実習(環境と安全,技術者倫理学,技術史,鉱業史)
3.国際性を養う専門教育(海外実習,テクニカルコミュニケーション,外国文献講読)
4.プロポーザル能力の養成(研究プロポーザル)
5.入学から卒業までの継続性を重視した４年一貫教育(初年次ゼミ,高学年特別講義)
6.情報処理能力の養成(情報処理の技法)
7.職業意識を高める実践教育(インターンシップ)
8.大学,学部,学科を越えた履修範囲(自由科目,他大学との単位互換)

学科	講座			
地球資源学科	応用地球科学	地球システム工学		
環境物質工学科	素材プロセス工学	環境・素材設計工学	分子機能化学	化学システム学
材料工学科	材料物性学	知能材料学	エネルギー材料学	材料開発工学
情報工学科	人間情報工学	産業情報工学	数理情報工学	
機械工学科	機械物理工学	機械ダイナミクス	システム設計	ロボティクス・福祉工学
電気電子工学科	電気エネルギー工学	光・電子デバイス工学	知能情報通信工学	制御システム工学
土木環境工学科	福祉環境工学	環境構造工学	地域環境工学	

工学資源学研究科

工学資源学研究科は,既設の鉱山学研究科を改組・再編し,工学資源学部の設立理念に立ち,新しい研究領域を創出するため,学部の学科に対応する前期課程は７専攻とし,新たな理念に基づいた後期課程4専攻としました。

○前期課程各専攻
国際的に活躍する資源専門技術者,環境技術や先端化学技術に貢献する専門技術者,先端機能材料の開発を目指す専門技術者,マルチメディア社会に即応できる専門技術者,人と環境にやさしい機械システムの開発に貢献できる専門技術者,創造的エレクトロニクス専門技術者,ノーマライゼーション理念で社会基盤設計を行う専門技術者の養成

課程	専攻	講座	
博士前期課程	地球資源学	応用地球科学 地球システム工学	
	環境物質工学	素材プロセス工学 環境・素材設計工学	分子機能化学 化学システム学
	材料工学	材料物性学 知能材料学	エネルギー材料学 材料開発工学
	情報工学	人間情報工学 産業情報工学	数理情報工学
	機械工学	機械物理工学 機械ダイナミクス	システム設計 ロボティクス・福祉工学
	電気電子工学	電気エネルギー工学 光・電子デバイス工学	知能情報通信工学 制御システム工学
	土木環境工学	福祉環境工学 環境構造工学	地域環境工学

○後期課程各専攻
地球の資源・物質環境を考えた総合的な資源学の体系化,物質に関する広範囲の知識を総合した開発,組織的なものづくりと生活基盤整備,電気電子技術を基盤とした情報技術の開発

課程	専攻	講座	
博士後期課程	資源学	資源地球科学 資源環境学	環境資源サイクル工学
	機能物質工学	機能材料工学 環境応用化学	
	生産・建設工学	生産システム工学 社会基盤工学	福祉システム工学
	電気電子情報システム工学	電気情報基盤システム工学 電子情報基盤システム工学	

特殊教育特別専攻科

Advanced Program in Special Education

特殊教育特別専攻科

1.目的

特殊教育特別専攻科は,特殊教育(障害児教育・特別支援教育)の充実を図るために,主に知的障害児を教育する養護学校の教員を養成する目的で設置されています。現在は,一般社会人を含む多くの人を対象に,障害児教育の専門家の育成を行っています。

2.取得資格及び修業年限

取得資格:養護学校教諭一種免許状

修業年限:1年

3.出願資格

大学を卒業し,小学校,中学校,高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有する者(見込みも含みます)。

4.入学定員

知的障害教育専攻　30名

5.教育内容

特別専攻科のカリキュラムは,障害児教育・福祉の概説,各種障害の理解,障害児の指導法,養護学校での教育実習等により1年間で30単位以上修得し,障害児教育教員としての基礎的・実際的な力が修得できるように配慮されています。

学ぶ内容は,知的障害を中心に,近年注目されている軽度発達障害を含む発達障害全般に及び,各指導教員の専門領域の特色を活かした講義と研究指導(研究論文)が行われています。研究指導では,自分の選んだテーマを追究し論文にしていきます。

さらに,障害児教育・福祉の実際に即した研修を図るために,盲・聾・養護学校,福祉施設及び医療機関等の実地見学・研修の機会も設けています。

6.就職状況等

修了者は,秋田県内外の盲・聾・養護学校,福祉施設等の障害児教育・福祉分野で活躍しています。また,大学院へ進学し,さらに研鑽を深める道も開かれています。

〈特別専攻科主任から一言〉

特別専攻科は,私立大学出身者,30～40歳代の人たち等多様な経歴・年齢の学生が入学しています。勉学意欲が豊かで,学部学生たちの刺激にもなっています。同期生や教員たちとの交流も盛んで,充実した1年間を過ごしています。卒業後養護学校教師になる人が多いのですが,それぞれの持味を活かした進路に進んで活躍しています。

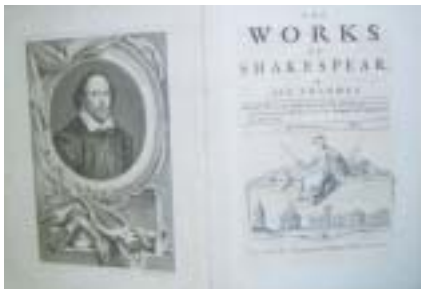
附属図書館
University Library

開館時間

区　　分	本館・医学部分館	春季・夏季・冬季休業期間中
平　　日	8:30～20:00	8:30～17:00
土・日・祝	9:00～17:00	閉　　館

本館ブラウジングコーナー

本館（正面玄関）



特別コレクション
18世紀に出版された
シェイクスピア全集等を
所蔵しています。

○附属図書館は本館（手形地区）と医学部分館（本道地区）があり，図書・雑誌・電子情報等の学術資料の体系的な収集管理と，その蓄積された情報の提供を行っています。

○蔵書は本館が約389千冊，医学部分館が約106千冊となっています。

○附属図書館では次のようなサービスを行い，学生・教職員の学習・教育・研究の支援をしています。

1.閲覧サービス
2.貸出サービス
3.文献複写サービス
4.蔵書検索サービス
5.各種文献データベースサービス
6.電子ジャーナル
7.図書館ホームページ

○地域に開かれた図書館として学外の方も気軽に利用できます。館内閲覧や館外貸出（利用者カードを発行します）もできます。また，地域においてボランティア活動を希望される方々のために「図書館ボランティア」を募集しています。現在，8名の方々が，本館・医学部分館において図書館ボランティアとして，ご活躍いただいております。

●詳細についてのお問い合わせは

〈本館：利用サービス係〉
電話 018-889-2279
E-mail:riyo@lib.akita-u.ac.jp/
本館HP:http://www.lib.akita-u.ac.jp/

〈医学部分館：図書係〉
電話 018-884-6052
E-mail:medlib@lib.akita-u.ac.jp/
分館HP:http://libra.med.akita-u.ac.jp/

本館2階閲覧室

医学部分館情報検索コーナー

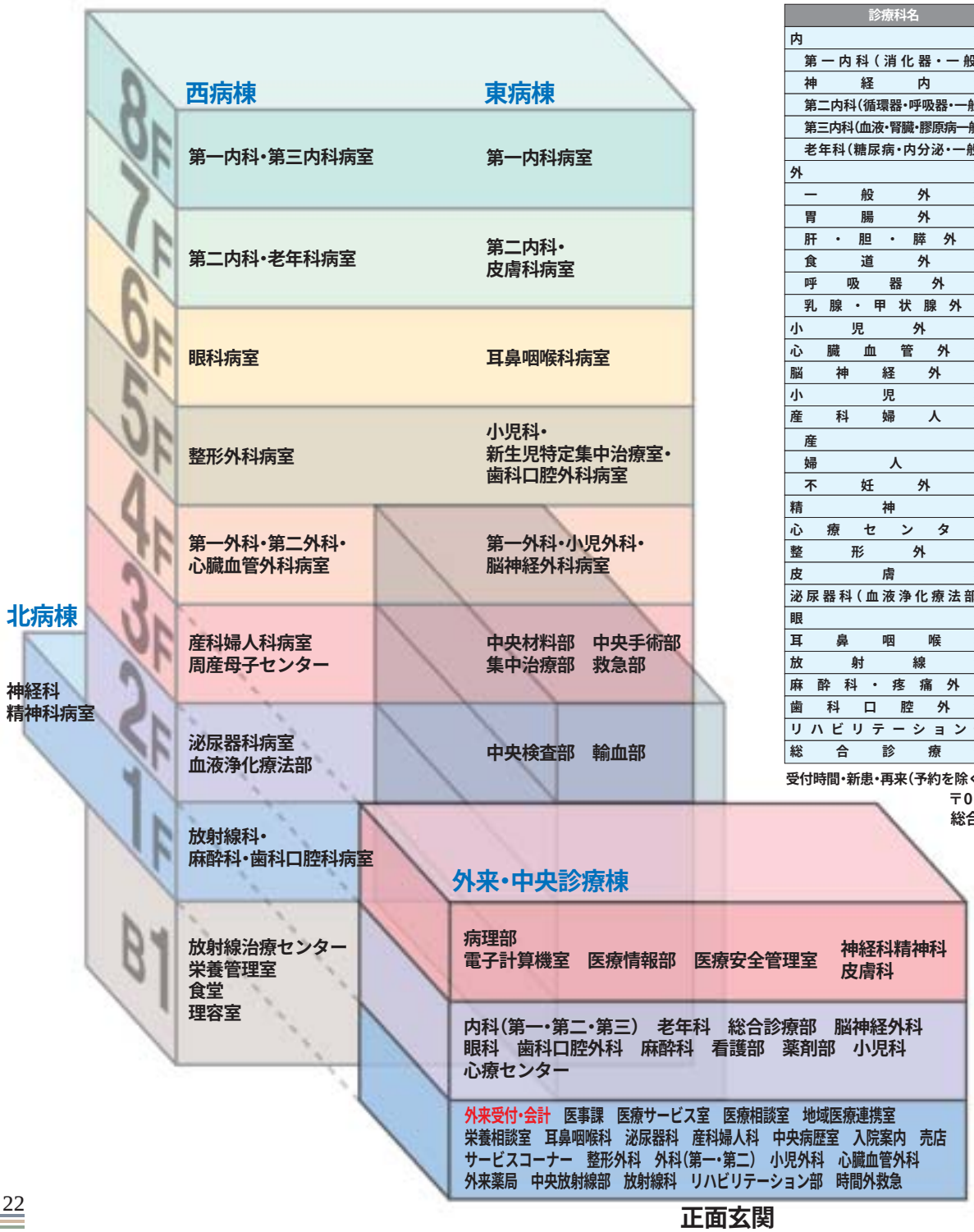
医学部附属病院

University Hospital

医学部附属病院は,教育研究施設であるとともに,地域における医療機関の中核として各専門分野にわたる豊富な知識と最新の医療機器等による診療機能を駆使する医療機関として昭和46年に開院し,平成６年には特定機能病院として承認され,地域に対する指導的役割を担う病院としてさらに期待される存在にあり,今後なお一層地域社会への貢献が望まれています。

また,患者にとって安心できる医療環境の下で,良質で高度な医療を適切に提供することを通して,優れた医療人の育成と医学研究の進歩のため積極的に役割を果たすとともに,地域医療・保健活動の中心として役割を担い,さらに国際的にも貢献できるよう努めています。

病院案内図



「各診療科の受付曜日・時間等」のご案内

平成17年5月1日現在

診療科名	新患	再来
内科		
第一内科(消化器・一般)	火・金	月～金
神経内科	月・火・木・金	月・火・木・金
第二内科(循環器・呼吸器・一般)	月・水	月～金
第三内科(血液・腎臓・膠原病一般)	月・木	
老年科(糖尿病・内分泌・一般)	火・金	
外科		
一般外科	月～金	月～金
胃腸外科		
肝・胆・膵外科		
食道外科		
呼吸器外科		
乳腺・甲状腺外科		
小児外科		
心臓血管外科		
脳神経外科		
小児科		
産科婦人科		
産科	月～金	月・火・水・木
婦人科		月・火・木・金
不妊外来		月・火・水・金
精神科		月～金
心療センター		
整形外科		
皮膚科		
泌尿器科(血液浄化療法部)		
眼科		月・水・金
耳鼻咽喉科	原則として火・木・金	月～金
放射線科	月～金	
麻酔科・疼痛外来		
歯科口腔外科		
リハビリテーション部		
総合診療部		

受付時間・新患・再来(予約を除く)とも8:30～10:30(全診療科共通)

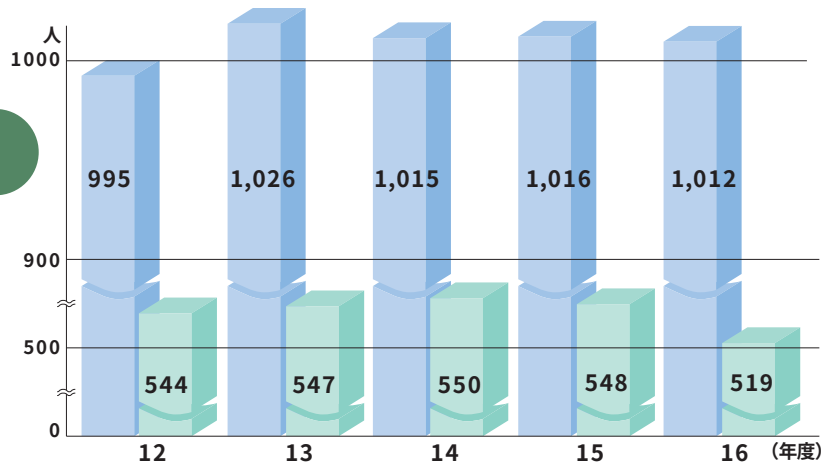
〒010-8543　秋田市本道一丁目1-1

総合案内　TEL:018-834-1111(代)

診療科	病床数	平成16年度延患者数	
		入院	外来
第一内科	57	19,707 人	28,963 人
第二内科	59	17,441	23,327
第三内科	39	13,943	11,825
老年科	11	3,384	14,695
第一外科	30	10,809	4,138
第二外科	30	9,630	8,556
心臓血管外科	20	5,828	1,961
脳神経外科	20	7,509	6,750
小児外科	13	2,567	1,896
小児科	31	11,358	9,316
産科婦人科	44	15,129	17,153
神経科精神科	36	10,913	22,669
整形外科	38	11,136	18,462
皮膚科	16	4,068	14,855
泌尿器科	41	13,218	12,134
眼科	30	10,179	18,236
耳鼻咽喉科	40	11,997	15,649
放射線科	22	6,794	2,219
麻酔科	5	479	2,379
歯科口腔外科	10	3,311	10,762
共通	8		
ICU	6		
NICU	4		
合計	610	189,400	245,855

中央診療施設等
注:( )内は院内措置施設
中央検査部
中央手術部
中央放射線部
中央材料部
集中治療部
救急部
輸血部
リハビリテーション部
医療情報部
血液浄化療法部
(中央病歴部)
(周産母子センター)
(病理部)
(総合診療部)
(治験管理センター)
(医療機器管理センター)
(移植検査センター)
(卒後臨床研修センター)
(光学医療診療部)
(遺伝子医療部)

年度別1日平均患者数



教育文化学部附属学校園

Affiliated School

平成17年5月1日現在

区分		総定員	学級数	現員 1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
附属小学校		720	18	102	107	108	114	117	117	665
附属中学校		480	12	149	146	152				447
附属養護学校	小学部	18	3	5		6		5		16
	中学部	18	3	5	7	6				18
	高等部	24	3	9	10	10				29
附属幼稚園	2年保育	100	5			4歳児	43	5歳児	45	88
	3年保育	60		3歳児	20	4歳児	19	5歳児	18	57

附属小学校

附属中学校

附属養護学校

附属幼稚園

学部附属教育研究施設

Facilities for Education and Research

学部	施設名	施設目的	研究部門等
教育文化学部	教育実践総合センター	学習環境及び教育臨床等の教育実践に関する総合的研究	学習環境研究部門 教育臨床研究部門 臨床心理相談室
工学資源学部	鉱業博物館	鉱業に関する研究調査 鉱業関係の博物館資料の収集保管及び展示	標本資料／約16,500点 模型／約200点
	素材資源システム研究施設	資源及び新素材の開発並びにその他地球環境の関わりを総合的に研究	資源・環境情報学研究部門 素材物性学研究部門
	ものづくり創造工学センター	ものづくり教育の推進と創造型エンジニアの育成 地域社会への貢献	創造工学教育部門 教育・研究支援部門 地域連携・広報部門 分析・評価部門

教育実践総合センター

素材資源システム研究施設

鉱業博物館

ものづくり創造工学センター

鉱業博物館
Mineral Industry Museum

●平成17年度鉱業博物館行事

【前期企画展】
「深海に穴をあける　ー海から探る地球の歴史ー」
（平成17年7月9日～8月21日）

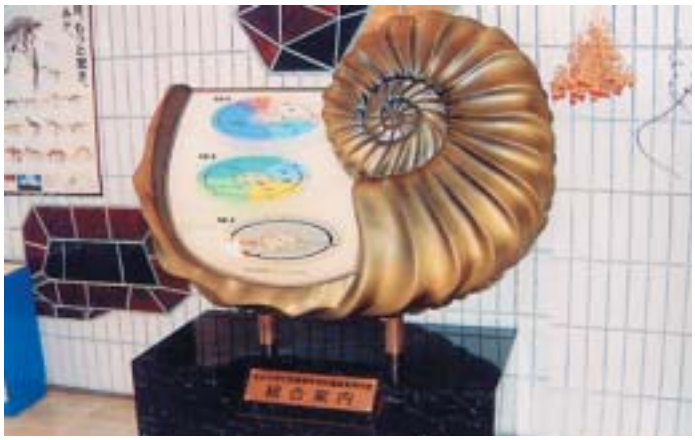
【後期企画展】
環境物質工学に関連したテーマ
（平成17年10月1日～11月10日）

【ジュニアサイエンススクール】
鉱物採集と整理
（平成17年7月27日・28日）
対象：小学5年～6年生

【子供科学教室】
「テーマ未定」
（平成18年1月7日予定）対象：小学校高学年～中学生

●開館時間：9時～16時（休館日を除く）
●休 館 日：毎週月曜日(但し月曜日が祝日の場合は翌日)
　　：年末年始（12月26日～翌年1月5日）
●入 館 料：

個人	大人250円 小人（中学生以下）130円
団体（30名以上）	大人190円 小人（中学生以下）100円



▲1階総合案内

▲1階展示室　ニッケル鉱（兵庫県　夏梅鉱山）

▲ジュニアサイエンススクール　貝化石採集と整理

就職支援活動
Career Development

1.学生支援総合センターでの取り組み

秋田大学は,平成16年4月に発足した学生支援総合センターを通して,様々な側面から学生生活への支援を行っています。その中の就職活動支援部門では,学生が卒業後,自分の志望を達成できるように支援を行っています。

具体的には,以下のような支援事業を実施しています。

●学生には早い段階で,しっかりとした職業感を身に付けてもらいたいと考えています。そのためにも,本学では1年次の初年次ゼミの時間に職業観について考えるためのプログラムを設け,また1・2年次を対象に「キャリア形成入門」を開設しています。

●様々なセミナー,講演会,企業説明会を開催しています。それらに参加することを通して,自分はどのような分野で能力を発揮したいのか,そこではどういう人材を求めているのか,そこで評価されるためには大学で何をしなくてはならないのか,について学生にしっかりと判断し,責任を持って行動してもらいたいと考えています。

●高倍率の試験に合格することが必須である公務員等を志望する学生のために,実践セミナー等を開催しています。

2.各学部の就職支援体制

教育文化学部: 就職情報室を設置し,学生が活用できるよう,就職に関するデータを収集整理しています。また,学生には試験対策,エントリーシートや志望動機の書き方,面接を受ける際の注意点等遠慮なく学部の就職委員や就職情報室のスタッフに相談して欲しいと思います。

工学資源学部: (株)リクルートを経て現在秋田ふるさと村代表取締役を務めている若杉清一氏をアドバイザーとして迎え,就職活動アドバイザー室を開設し,学生が就職に関する一切の事柄に関して相談できる体制を整備しています。

医学部医学科: 平成16年から臨床研修必修化制度が始まり,医師免許取得後2年間は,プライマリ・ケアの基本的な診療能力の習得を目指して,各科のスーパーローテーション研修が義務付けられました。本学では必修化が始まる2年前から附属病院内に卒後臨床研修センターを設置して具体的な準備を進めてきました。同センターでは,研修プログラムの作成やマッチングに関わる事務手続きの一切を行っています。研修に関する説明会は年数回行います。

センター及び機構

Center for Education and Research

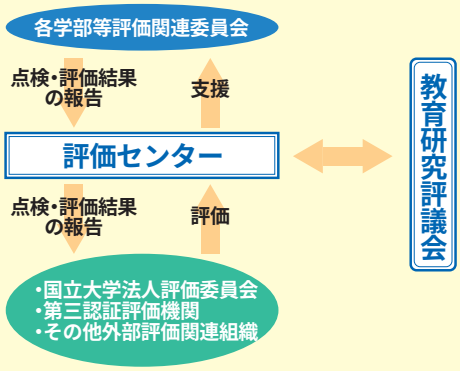
評価センター

目的

1.秋田大学における自己点検・評価活動とその改善努力の支援
2.評価とそのシステムについての研究・開発

体制及び業務

◆秋田大学の自己点検・評価活動の支援
◆秋田大学の中期目標・中期計画の実施及び評価についての対応
◆外部評価及び第三者評価に対応した
　学内調整や取りまとめ,報告書の作成
◆学内の教育・研究活動,自己点検・評価活動の成果や
　経緯を示す資料の収集・整理・蓄積,情報の公開
◆「大学評価」についての方法やシステムの開発
◆評価活動に関わる広報活動
◆評価活動に関わる研究会・ワークショップの開催
◆評価活動の結果を各部局に還元し,各部局と連携をとりながら,
　教育・研究,管理運営の改善に向けた支援・研究活動を実施



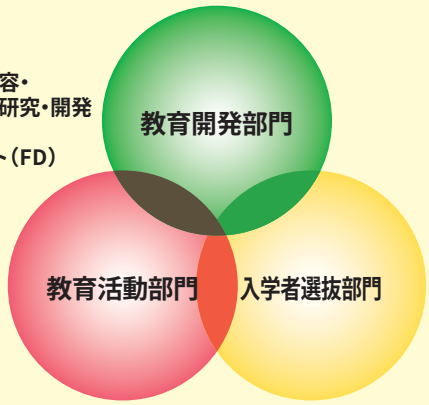
教育推進総合センター

目的

1.教養基礎教育を中心とする教育体制の構築と教育活動の推進
2.教養基礎教育及び専門教育の調査・研究・開発による改善・充実
3.入学者選抜に関する調査・研究による入学試験の改善

3つの部門と業務

◆教養基礎教育を中心とする教育内容・
　教育方法・教育環境に関する調査・研究・開発
◆教育活動に関する
　ファカルティ・ディベロップメント(FD)



◆教養基礎教育を中心とする
　大学教育の実施・運営
　カリキュラムの企画・立案
◆履修上の教育支援

◆入学者選抜に関する
　広報及び情報開示
　調査・研究
◆入学試験の改善

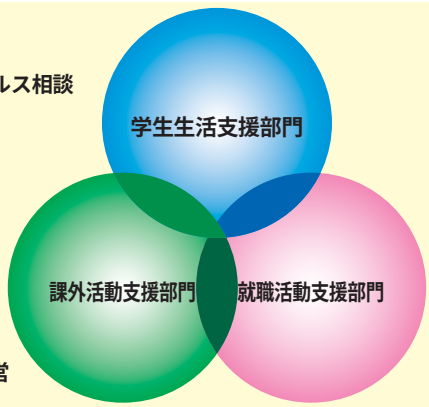
学生支援総合センター

目的

1.種々の生活相談及び授業料免除や奨学金交付推薦等の生活支援
2.大学祭等の課外活動の支援及び課外活動施設の整備・充実の推進
3.就職ガイダンスの実施及び就職情報の提供等による就職活動支援

3つの部門と業務

◆学生相談及びメンタルヘルス相談
◆授業料等の免除及び猶予
◆学園だより等の編集
◆奨学金
◆学生寮
◆留学生



◆学生が行う団体活動の支援
◆学生の研修を企画・実施
◆学生が計画した行事を支援
◆課外活動施設の管理・運営
◆大学会館及び乳頭ロッジの管理・運営

◆就職ガイダンスの実施
◆就職懇談会の実施
◆就職情報の分析及び提供
◆就職相談
◆就職先の開拓

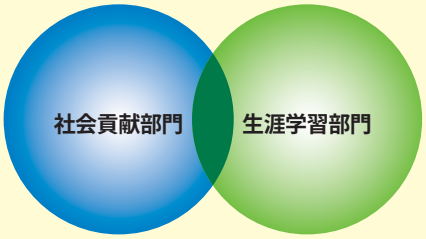
社会貢献推進機構

目的

1.人的・物的資源や総合力を活用した社会・地域への貢献
2.教育・研究の成果を地域社会に還元・提供するための,生涯学習社会に対応した諸事業の継続実施

2つの部門と業務

社会・地域に貢献する事業の企画・立案・実施



生涯学習社会に対応した諸事業の企画・立案・実施

国際交流推進機構

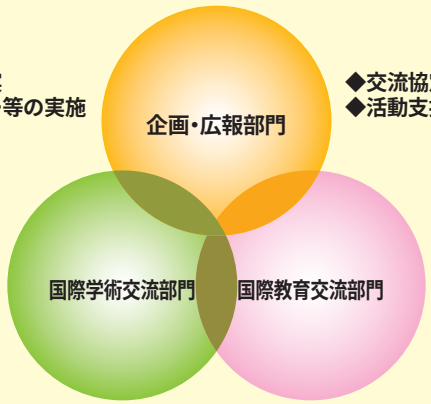
目的

1.国際交流に関する企画・広報活動
2.国際学術交流の推進
3.国際教育交流の推進

3つの部門と業務

◆情報提供体制の充実
◆国際化推進セミナー等の実施

◆交流協定校の拡充
◆活動支援体制の整備



◆共同研究・研究者交流・
国際会議開催の促進と支援

◆留学生受入れ体制の整備
◆学生の海外派遣体制の整備

知的財産本部

目的

知的創造サイクルの構築による学術研究の発展と社会貢献

業務

本学 ▶ 発明→特許・権利化→マーケティング→ライセンシング ▶ 企業等

学内共同教育研究施設等

University Common Use Facilities for Education and Research

施　設　名	目　的　等
地域共同研究センター 	民間機関との共同研究や民間への学術情報の提供，研究開発に関わる技術相談などを行うための施設です。また，ベンチャー育成講座を実施するなど学生に対する実際的な応用教育の面で学生教育とも大きな関わりがあります。
総合情報処理センター 	約200台の教育端末と高速なキャンパスネットワークを運用しています。教職員，大学院生，学部生など誰でも利用でき，教育研究に活用されています。学内のインターネットの利用や科学技術計算，データ処理などのコンピュータ環境を提供しています。
放射性同位元素センター 	放射性同位元素を使用した研究・教育・放射線障害防止訓練の指導を目的として運営されています。化学実験室，放射能測定室などからなり，特に，低温状態での非密封線源を用いる実験に適した低温実験室を備えており，より高度な研究を可能にしています。また，線源の地下格納や自動制御による実験室の放射線測定など作業環境の安全確保に努めています。
環境安全センター 	教育研究及び診療に伴い生じる有害物質を含んだ廃液等の処理を行い環境保全に資するため,有害廃液等を無機系廃液,有機系廃液及び有害固形廃棄物に区分し,分別収集により,これらの適正処理・処分を行っています。多種・多様な性状を有する廃液等は研究機関特有であるため,処理技術の検討・改善を行い適正処理に努めています。また,学内外において環境科学等に係る教育・実習及び共同研究を実施しています。

施　設　名	目　的　等
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 	希少元素は世界的に埋蔵量の少ない貴重な資源ですが,IT産業やナノテクノロジーでは必要不可欠な物質です。ラボラトリーでは,「希少元素物質のリサイクル技術の革新と高度素材設計」を目的とした教育・研究を進めています。さらには,新産業の創出も目指しています。
バイオサイエンス教育・研究センター 	近年のバイオサイエンスの進展は著しく,ヒトゲノムプロジェクトの完了とも相まってプロテオミクス,ファーマコジェネティクス,バイオインフォマティックスなど,従来の研究手法では十分対応しきれないような研究,再生医療やインシリコのアプローチなど,学際・複合研究領域に対する社会的な要求も高まっています。このような背景のもと,秋田大学では平成16年度,これまでに教育研究支援で十分な実績を挙げてきた医学部附属動物実験施設,医学部附属実験実習機器センター及び医学部放射性同位元素(RI)センターの3つの共同教育研究施設を全学共同教育研究施設として統合・発展的改組することにより,施設の効率的利用をはかりながら時代に即した環境整備を図ることになりました。バイオサイエンス教育・研究センターはさらに地域及び国際連携等の社会への貢献機能を付加し,21世紀COEプログラムを支援することにより,特色ある研究教育拠点を目指しています。
戸　賀　臨　海　実　習　所 	学芸学部創立90周年並びに手形統合記念事業として,卒業生,教職員等の協力で昭和39年12月に男鹿半島戸賀湾の一角に建設された施設で,研修室や50人収容の宿泊室などを整備し,男鹿半島の自然,地質,生物,人文科学等の調査の基地として活用できるだけでなく,学生,教職員の研究,実習,合宿等に利用できます。
乳　頭　ロ　ッ　ジ 	本学学生の研修・課外活動,職員の研修及び福利厚生施設として,平成8年11月に設けられた施設です。同施設は,十和田八幡平国立公園の南部,乳頭温泉郷(秘湯全国の温泉100選)の一角にあり,周辺は高山植物の宝庫といわれる秋田駒ヶ岳,深度日本一の田沢湖など,また乳頭キャンプ場,田沢湖スキー場など豊かな自然環境に恵まれ,四季を通じて多様な活動が可能なところです。

福利厚生施設等

Welfare Facilities, etc.

保健管理センター

健康診断

案　内

1)定期学生健康診断
　新入学生,卒業・修了年次学生……4月中旬
　在学生……5月中旬
2)健康相談
　・内科の健康相談……毎日(午後)
　・悩み事,心の健康相談……毎日(午後)
　・皮膚科,眼科,耳鼻咽喉科の健康相談……毎月1回
3)応急処置
4)健康診断書の発行

大学会館

手形キャンパス内の
大学会館(クレール)

手形キャンパス内

1)開館時間8:30～20:00
　(土・日・祝日を除く)
2)食堂(704席)
3)食品・弁当コーナー
4)書籍・文具コーナー
5)喫茶室(12席)
6)アメニティーコーナー
　(自由に談話し憩うための場)
7)研修室(3室),和室(2室)
8)アルバイトセンター

本道キャンパス内

1)開館時間8:30～20:00
　(土・日・祝日を除く)
2)食堂(64席)
3)売店
4)談話室(106席)
5)喫茶室(28席)
6)会議室
　(大会議室・小会議室)
7)和室

学生寮

手形寮

	手形寮(女子)	本道寮(女子)	北光寮(工学資源学部男子)
	745m²	1,121m²	3,460m²
居室形態	個室	個室	2人部屋
定員	40人	31人	240人

留学生会館

案　内

1)居室
　単身室(27室),夫婦室(3室)
2)入居対象者
　・本学に在学する外国人留学生
　　及びその配偶者
　・その他館長が必要と認めた者

RC3階建(995m²)

国際交流会館

案　内

1) 居室
　単身室(外国人留学生用10室,外国人研究者用5室)
　夫婦室(外国人研究者用3室),家族室(外国人研究者用2室)
2) 入居対象者
　・本学に在学する外国人留学生
　・本学において教育研究に従事する外国人研究者及びその配偶者・子女
　・その他館長が適当と認めた者

RC3階建(753m²)

学術交流会館

案　内

1) 利用目的等
　会議,研修会,宿泊
2)施設
　研修室
　　定員　洋室45人　和室12人
　宿泊室
　　シングル3室　ツイン2室　和室1室

体育施設等

Sports Facilities

施設	面積(m²)			備考
	手形地区	本道地区	保戸野地区	
陸上競技場	24,637	20,909	—	400m 6コース　メイン 8コース
野球場	20,378		—	
サッカー場	陸上競技場と併用	陸上競技場と併用	—	サッカー　ラグビー　(本道地区はサッカー ラグビー　アーチェリー　準硬式野球)
ハンドボール場	(1,200)	—	—	陸上競技場に含む
大体育館	2,591	1,079	3,588	バスケットボール　バレーボール　バドミントン 柔道　剣道　合気道(本道地区はバレーボール バドミントン　バスケットボール　卓球 サロン・フットボール)
小体育館	650	—	—	体操　卓球　空手道
柔剣道場(武道場)	—	—	373	柔道　剣道
弓道場	149	—	—	的場(44m²)は含まない。
テニスコート	(5面)3,238	(5面)3,614	—	
プール(25m)	800	—	—	
運動場	—	—	14,923	

野球場

陸上競技場

プール

東京サテライト
Tokyo Satellite

企業との産学官連携の推進等，教育・研究，社会貢献活動の周知・発展を図るため，首都圏における情報収集・発信，広報・広聴，連絡調整，交渉等を機動的に行う拠点として，「秋田大学東京サテライト」を設置しました。

業務紹介

大学活動拠点

●首都圏の情報収集，首都圏への本学情報発信
●入試広報，入試説明会，各学校への情報発信，訪問活動拠点
●就職活動，就職斡旋先企業等への情報発信，訪問活動拠点
●シンポジウム，説明会等の研究成果発表
●公開講座等，生涯学習的な教育活動
●大学周知等の各種イベント
●同窓会入会，相談

産学官連携

●共同研究，受託研究，研究プロジェクト等，産学官連携，関連企業等との連絡調整・技術相談
●企業ニーズ等を身近に感じた新規プロジェクトの提案・相談
●迅速な初動を重点とした企業等との連絡・相談
●知的財産の管理・活用における企業，弁理士等との連絡・相談

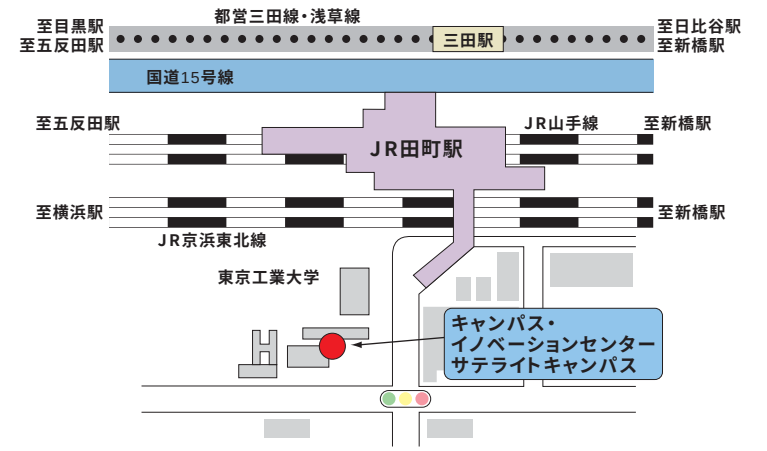
所在地：〒108-0023　東京都港区芝浦3-3-6
　　キャンパス・イノベーションセンター6階　604オフィス（20m²）
電　話：03-5440-9104

▲キャンパス・イノベーションセンター外観

▲東京サテライト604オフィス

▲共用利用スペース

◇キャンパス・イノベーションセンター周辺マップ



工学資源学部通信教育講座

Education by Correspondence Course

通信教育講座は,国立大学法人唯一の文部科学省認定社会通信教育です。下表のような8コースで構成されており,18歳以上で高卒程度の学力があれば,添削指導などを通して系統立てて勉強することができます。1科目だけの科目履修生にもなれます。 なお,受講申込みは随時受け付けています。

●コース・受講生数及び修了生数

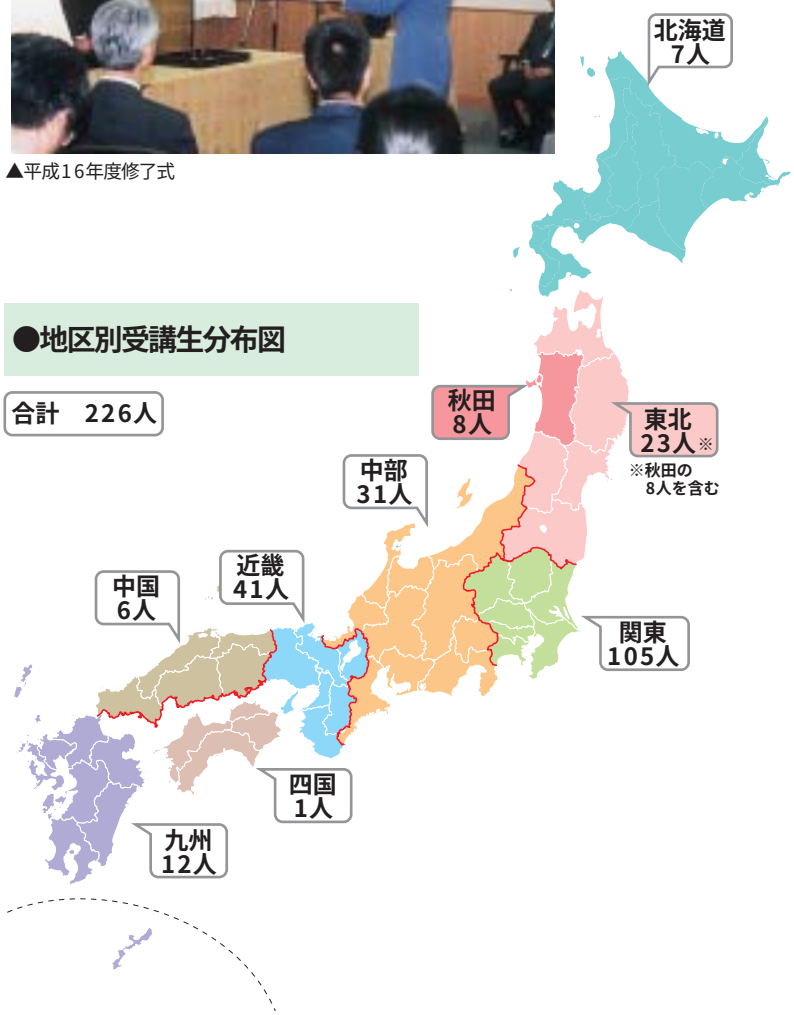
昭和25年4月～平成17年5月現在

課　　程	現受講生数	修了生
地球科学コース	54	65
資源開発コース	21	19
材料工学基礎コース	19	15
材料工学専門コース	5	7
電気・電子基礎コース	78	45
電気系専門コース	3	15
電子系専門コース	10	11
一般科学技術コース	36	23
採鉱・地質課程		457
冶金・金属材料課程		501
電気・電子課程		399
計	226	1,557

▲平成16年度修了式

●地区別受講生分布図

平成17年5月1日現在



スクーリングの様子

平成17年度大学開放事業

Open Campus (Academic Year of 2005)

教育文化学部オープンキャンパス（平成17年10月8日～9日）

大学開放事業の一環として,学生による音楽会・演奏会・交流会・各講座における研究に関する展示,研究発表会の公開,実験や実習の体験,教員研究室の公開などを行います。

多くの方々に,楽しみながら教育文化学部の教育・研究活動に触れていただき,2日間ともに地域の皆さんと交流を深める場にするよう計画しています。

工学資源学部オープンキャンパス（平成17年10月8日）

大学開放事業の一環として,学科・研究室を広く一般に公開し,最先端の科学技術を体験していただくことを目的としています。

平成16年度オープンキャンパスの様子

工学資源学部の出前講義

工学資源学部では,高校生,小・中学生や市民の皆様,そして,企業,地方自治体の皆様のためになり,わかりやすくそして面白い講義を用意し,生徒の皆さんには工学の面白いところを,社会の皆様には優しく興味ある話を,「出前講義」として広くご利用いただいております。講義題目一覧はホームページでご覧ください。

（http://www.eng.akita-u.ac.jp/）

平成17年度主な課外行事

Main Extracurricular Events (Academic Year of 2005)

今日歩（きょうほ）大会　6/4（土）～5（日）

男鹿半島の寒風山を午後9時に出発して，大学まで約40キロの道のりを走(踏)破するもので，学生，教職員及び一般市民約500人が参加して行われる大学の名物行事です。

大学祭　10/8（土）～9（日）

各学部間の交流，学生と教職員や一般市民との交流を深めることを目的として，毎年実施し，学内外を問わず親しまれている行事です。

第56回東北地区大学総合体育大会　6/17（金）～7/3（日）

東北地区の国・公・私立の52大学による総合体育大会で，平成17年度は盛岡市内が会場となります。

全学駅伝大会　11/5（土）12:00～

学生同士や，学生と教職員との交流を深め，スポーツマン精神を養うことを目的に，男女合わせて約30チームが健脚を競っています。応援を含めて全学が熱狂する行事です。

サークルリーダー合宿研修会　8/8（月）～9（火）

課外活動団体のリーダーを中心に，必要な知識等を習得させるとともに，参加者相互の交流や討論を深めるため，毎年1泊2日の日程で実施しています。

スキー合宿研修会　2/18（土）～19（日）

1泊2日の日程で，秋田県営田沢湖スキー場を会場に行っており，初心者から上級者まで，各自の技術に合わせて行われる指導は，確実に上達できると定評があります。

注：写真はいずれも平成16年度実施分

手形地区施設配置図

Tegata Campus Map

教育文化学部

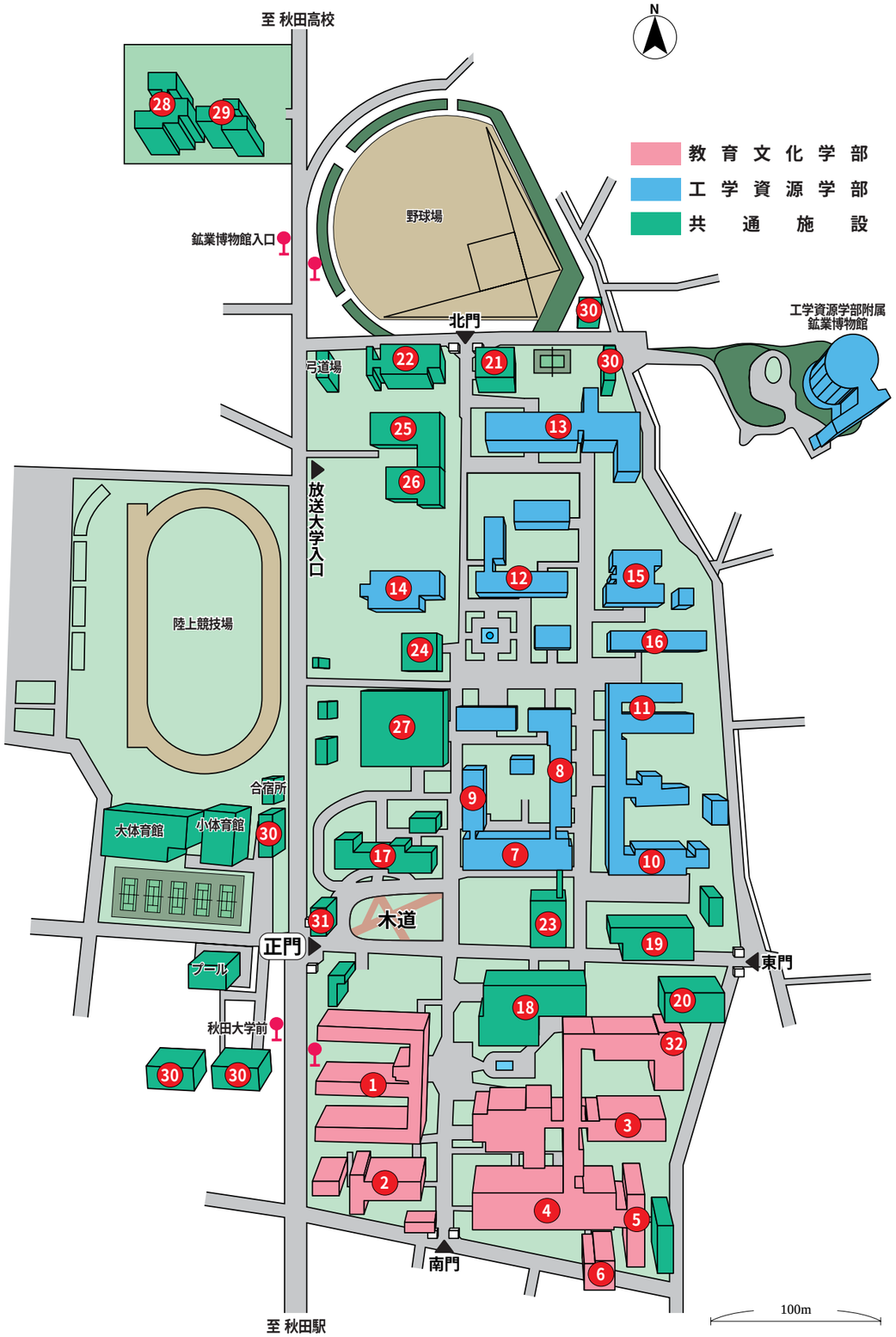
1. 1号館(管理棟)
2. 2号館(音楽棟)
3. 3号館
4. 4号館
5. 5号館
6. 附属教育実践総合センター

工学資源学部

7. 1号館(管理棟)
8. 1号館(電気電子工学科・土木環境工学科)
9. 1号館(電気電子工学科)
10. 2号館(地球資源学科)
11. 2号館(機械工学科)
12. 3号館(材料工学科)
13. 4号館(環境物質工学科)
14. 5号館(情報工学科)
15. 附属素材資源システム研究施設
16. 附属ものづくり創造工学センター

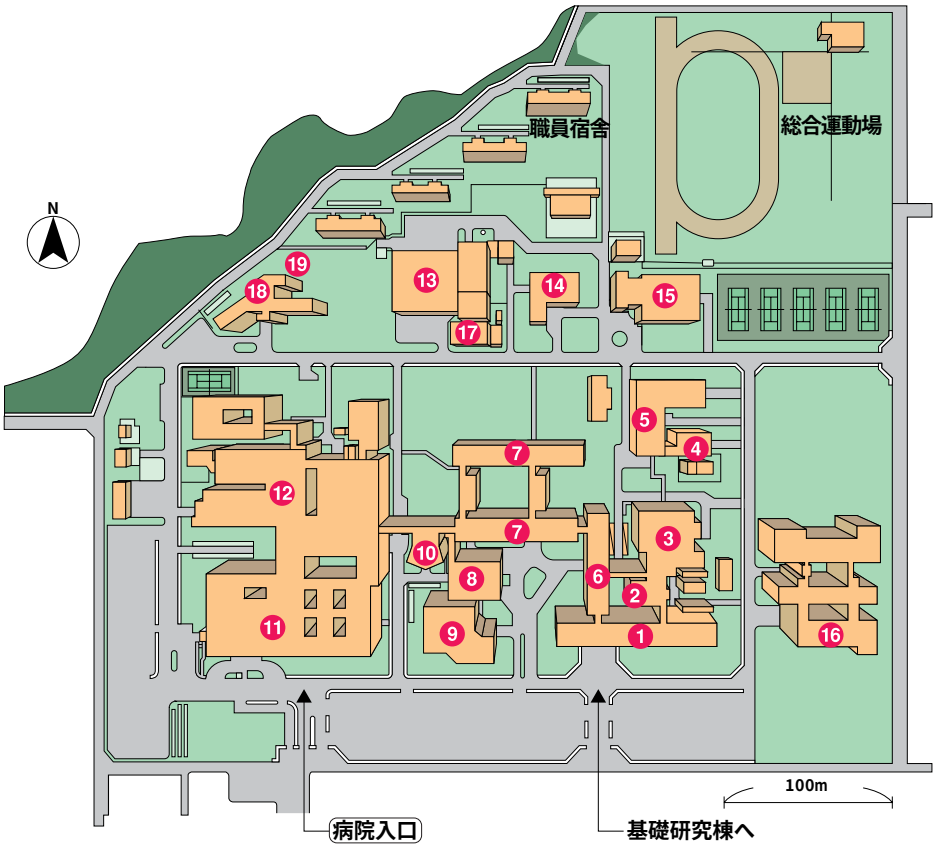
共通施設

17. 本部管理棟(事務局),学生支援総合センター,社会貢献推進機構,国際交流推進機構
18. 附属図書館
19. 一般教育1号館,教育推進総合センター
20. 一般教育2号館
21. 放射性同位元素センター
22. 地域共同研究センター,知的財産本部
23. 総合情報処理センター
24. 保健管理センター
25. ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー,放送大学秋田学習センター
26. 総合研究棟
27. 大学会館(クレール)
28. 国際交流会館
29. 女子学生寮(手形寮)
30. サークル棟
31. 総合案内所
32. 評価センター



本道地区施設配置図

Hondo Campus Map



1. 基礎医学研究棟
2. 基礎講義棟
3. 学生実習棟
4. バイオサイエンス教育・研究センター 放射性同位元素部門
5. バイオサイエンス教育・研究センター 動物実験部門
6. バイオサイエンス教育・研究センター 分子医学部門
7. 臨床医学研究棟
8. 管理棟
9. 附属図書館医学部分館
10. 臨床講義棟
11. 附属病院外来棟
12. 附属病院病棟
13. エネルギーセンター
14. 福利厚生施設（本道会館）
15. 体育館
16. 保健学科棟
17. 環境安全センター
18. 看護師宿舎/女子学生寮（本道寮）
19. 納骨堂

本道地区

保戸野地区施設配置図

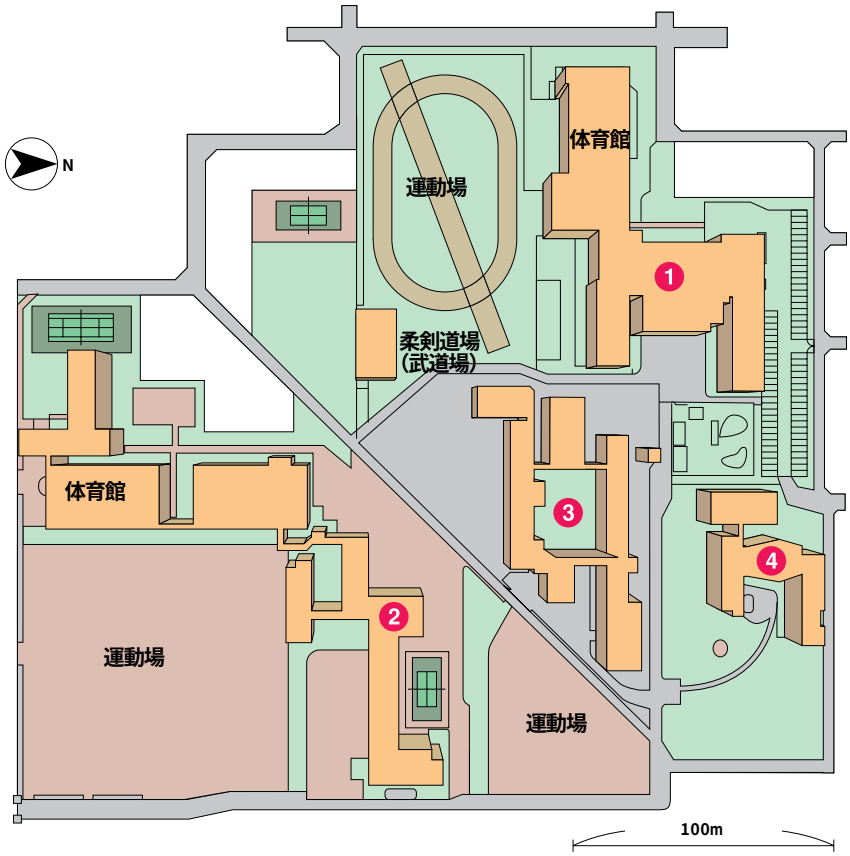
Hodono Campus Map

1 附属小学校

2 附属中学校

3 附属養護学校

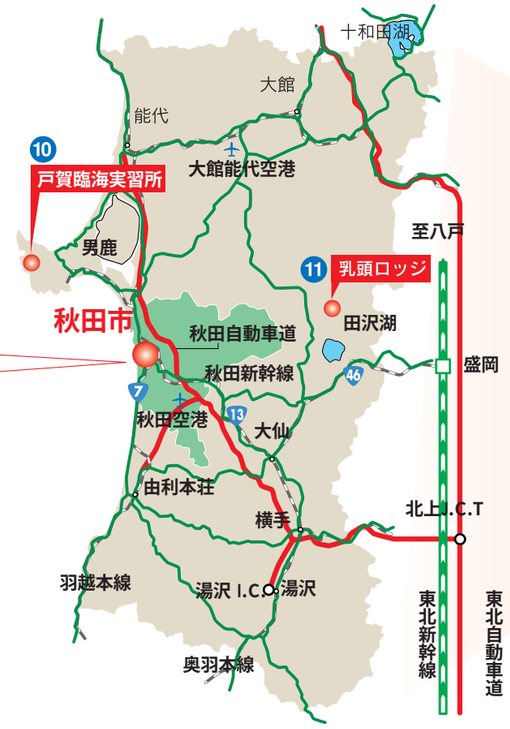
4 附属幼稚園



保戸野地区

位置図及び所在地

Location Map and Addresses



	名称	郵便番号	所在地	電話番号
1	事務局	010-8502	秋田市手形学園町1番1号	総合案内 (018)889-2207 (総務課総務係)
	附属図書館			(018)889-2273
	保健管理センター			(018)889-2286
	地域共同研究センター			(018)889-2712
	総合情報処理センター			(018)889-2499
	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー			(018)889-3040
	知的財産本部			(018)889-3020
	社会貢献推進機構			(018)889-2270
	国際交流推進機構			(018)889-2258
	教育推進総合センター			(018)889-3193
	学生支援総合センター			(018)889-2265
	教育文化学部			(018)889-2504 (総務係)
	附属教育実践総合センター			(018)889-2700
	工学資源学部			(018)889-2305 (総務係)
	附属素材資源システム研究施設			(018)889-2460
2	医学部	010-8543	秋田市本道一丁目1の1	総合案内 (018)833-1166
	附属病院			総合案内 (018)834-1111
	バイオサイエンス教育・研究センター			
	動物実験部門			(018)884-6193
	放射性同位元素部門			(018)884-6196
	分子医学部門			(018)884-6191
	附属図書館医学部分館			(018)833-1166
	本道寮（女子）	010-0825	秋田市柳田字糠塚100-3	――
3	附属鉱業博物館	010-8502	秋田市手形字大沢28番地の2号	(018)889-2461
4	附属小学校	010-0904	秋田市保戸野原の町13番1号	(018)862-2593
	附属中学校	010-0904	秋田市保戸野原の町7番75号	(018)862-3350
	附属養護学校			(018)862-8583
	附属幼稚園	010-0904	秋田市保戸野原の町14番32号	(018)862-2343
5	手形寮（女子）	010-0862	秋田市手形田中5番50号	(018)833-3319
6	国際交流会館	010-0862	秋田市手形田中5番50号	――
7	北光寮	010-0851	秋田市手形西谷地5番地	(018)833-2856
8	留学生会館	010-0041	秋田市広面字高田4番	(018)831-2170
9	学術交流会館	010-0873	秋田市千秋城下町3番28号	(018)835-9383
10	戸賀臨海実習所 →次ページ参照	010-0673	男鹿市戸賀塩浜字平床39の2	(0185)37-2024
11	乳頭ロッジ →次ページ参照	014-1201	仙北郡田沢湖町生保内字駒ケ岳2-228	(0187)46-2110
12	放送大学秋田学習センター	010-8502	秋田市手形学園町1番1号	(018)831-1997

バス案内（秋田駅前から）

平成17年4月現在

行先	路線	乗場	下車	所要時間（バス）
手形地区	手形山経由大学病院線	西口4番	秋田大学前	(10分)
本道地区	手形山経由大学病院線	西口4番	大学病院前	(20分)
	大学病院経由下北手線	西口13番		
	大学病院経由赤沼線			
	大学病院経由太平線			
	大学病院経由松崎団地線			
	駅東線	東口1番		
	赤沼線	東口2番		
保戸野地区	神田旭野線	西口3番	原の町	(15分)
	神田土崎線			
	添川線			

秋田新幹線「こまち号」

リムジンバス

秋田空港から秋田駅までの所要時間

●秋田駅西口発（1番のりば）⟷秋田空港：40分
「毎日11便運行」

●秋田駅東口発（4番のりば）⟷（高速道経由）秋田空港：25分
「毎日午前・午後の1便運行」

詳細は,次のアドレスをご覧ください。
http://www.akita-chuoukotsu.co.jp/home.htm

秋田県のすがた

❶ 人　口

県の人口は約115万人（平成17年4月）で，全国人口の0.9%です。
秋田市の人口は，約33万人で，県人口の約29%です。

❷ 面　積

県土の総面積は11,612㎢で，南北181km，東西111kmに及び，11市22町7村（平成17年6月）に区画されており，県全体の70.8%を森林が占めています。

❸ 気　候

秋田県は日本海沿岸特有の気候で，寒暖の差が大きく，最高・最低気温の差は30℃を超えます。暖候期は主に南東の風が吹いて晴れの日が多く，最高気温は8月には30℃以上にまで上昇します。降水量は9月が特に多く，また，梅雨期は日照時間が少ないものの，太平洋側に比べると晴れの日が多くなります。

❹ 県のシンボル（花・鳥・木）

花「ふきのとう」
NHKが郷土の花を募集したことがきっかけです。（昭和29年制定）

鳥「やまどり」
キジ科の鳥で，主に県内の内陸部の山地にすみます。（昭和39年制定）

木「秋田杉」
美しい木目と強い材質が特徴で，日本三大美林の一つに数えられています。（昭和41年制定）

秋田大学概要 平成17年度

【編集発行】
秋田大学総務部広報室

〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
TEL:018-889-3019　FAX:018-889-2219
http://www.akita-u.ac.jp/

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています